

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：九州地方整備局 地域道路課
 担当課長名：春田 義信

事業名	一般県道 佐仁万屋赤木名線 (須野工区)	事業区分	地方道	事業主体	鹿児島県						
起終点	起点：鹿児島県奄美市笠利町笠利 終点：鹿児島県奄美市笠利町須野			延長	2.3km						
事業概要 須野工区は、奄美市笠利町笠利から同市同町須野に至る延長2.3km区間の道路改良である。現道は、奄美大島北東部の海岸線沿いに位置し、幅員狭小、線形不良の狭路区間にあり、台風時の高潮による冠水の交通途絶予想箇所の指定区間でもあるため、災害に強く安全で円滑な交通の確保を図るものである。											
H11年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H12年度用地着手		H16年度工事着手							
全体事業費	36億円	事業進捗率	69%	供用済延長	0.7km						
計画交通量	1,500台/日										
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 3.2	総費用 (残事業/事業全体) 9.7/38億円 (事業費：9.2/37億円 維持管理費：0.50/0.71億円)	総便益 (残事業/事業全体) 31/42億円 (走行時間短縮便益：30/40億円 走行経費減少便益：1.6/1.6億円 交通事故減少便益：0.00/0.00億円)	基準年	平成20年度						
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動： B/C=3.6 (交通量+10%) B/C=2.9 (交通量-10%) 事業費変動： B/C=3.0 (事業費+10%) B/C=3.6 (事業費-10%) 事業期間変動： B/C=3.0 (事業期間+20%) B/C=3.3 (事業期間-20%)											
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（利便性の向上が期待できるバス路線） ・物流効率化の支援（農林水産品の流通の利便性が向上） ・国土・地域ネットワークの構築（現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消 W=5.0m） ・個性ある地域の形成（観光地へのアクセス向上が期待される） 他6項目に該当											
関係する地方公共団体等の意見 本路線は、奄美大島北部地域の生活・産業を支える半島循環道路であり、本区間は、幅員狭小及び線形不良の狭路区間であることから、地元からも早急な整備が待ち望まれている。											
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 特になし。											
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地買収については、77%が完了し0.7kmの部分供用を行っている。残事業は改良1.6kmであり、現在、整備を進めている。											
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 奄美市（旧笠利町）の地籍調査との調整を図りながらの用地取得を行ってきたことから期間を要している。地籍調査が完了したことから、今後も着実に整備を進めていく予定である。											
施設の構造や工法の変更等 コンクリート2次製品の積極的な活用を図り、コスト縮減を図った。											
対応方針	事業継続										
対応方針決定の理由	以上状況を勘案すれば当初から事業の必要性重要性は変わらないと考えられる。										
事業概要図	<p>事業箇所</p> <p>至 佐仁</p> <p>至 奄美空港</p> <p>2.3km</p> <p>大笠利港</p> <p>奄美群島国定公園第2種特別地域</p> <p>大笠利地区</p> <p>辺留地区</p> <p>須野地区</p> <p>大井川</p> <p>笠利川</p> <p>辺留川</p> <p>須野川</p> <p>須野橋 9.1m</p> <p>須野橋 13.9m</p> <p>笠利橋 21.7m</p> <p>辺留橋 10.3m</p> <p>幼稚園</p> <p>601</p> <p>特定環境保全公共下水道事業</p> <p>凡例</p> <table border="1"> <tr> <td>供用済箇所</td> <td>———</td> </tr> <tr> <td>事業評価箇所</td> <td>■■■■</td> </tr> <tr> <td>現道</td> <td>———</td> </tr> </table>					供用済箇所	———	事業評価箇所	■■■■	現道	———
供用済箇所	———										
事業評価箇所	■■■■										
現道	———										

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。